

令和2年度 学校だより



令和2年12月24日(木)

御前崎市立第一小学校

学校教育目標

花いっぱい 自分 友だち 御一小

E-mail:

12月号②

onichi@ed.city.omaezaki.shizuoka.jp

「制限ある環境の中でも最善の教育活動を」

今回のおたよりの表題にある言葉は、校長の私が常々職員に伝えていた言葉です。その言葉通り、本校の教育活動は「新型コロナウイルス感染防止対策」を講じたうえでの、今できる最善なものであったと思います。子供たちの我慢と努力、教職員の尽力、そして何より保護者の皆様や地域の皆様の御理解と御協力なしには実現できないことでした。本校の教育活動を温かく見守り、御支援いただいたすべての皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

毎年、本校では、大学教授等の専門家を招いて、子供たちや職員に御指導をいただいています。その中で、ここ4年間鳴門教育大学の久我直人教授に5年生に向けて「幸せが多い学校をつくるために」という演題で講話をいただいています。現在の中学校2年生の子供たちから数えて、今年で4つの学年の子供たち、合わせて400人以上がこの講話を聴いたことになりました。もちろん子供たちの様子によってそのお話は少しずつ進化しているのですが、今年は、12月14日に、久我教授はこのような話をしてくださいました。

- 1 幸せが多い学校は、みんなで作ることができる
- 2 誰にでも心根にやさしさがある
- 3 自分には自分の知らない力があり、自分を磨いていかないとわからない
- 4 頑張りやさしさが発揮される学校が「幸せの多い学校」になる
- 5 自分を磨き、優しさを発揮すると「幸せが多い学校」をつくることができる
- 6 自分一人だけではなく、みんなが頑張り優しさを発揮することで「幸せの多い学校」になる
- 7 御前崎第一小には、「幸せの多い学校」になれる可能性が大きい

5年生は、この講話の前に、自分たちのよさと課題について、付箋を用いて書き出しをしてありました。そして、講話を聴いた後、よさを生かし課題を解決して「幸せが多い学校」にするための手立てを話し合いました。2021年の学校をつくる意識を高め取り組むこと期待をしています。

こうした5年生の学校づくりへの思いを支えるものがあります。それは、6年生の実績です。6年生が「制限ある環境の中で最善の取組をしたい」と考えて進めてきた御T活動や運動会、委員会活動や授業づくりなど「頑張る6年生の姿」がそこにあつたからこそ、6年生へのあこがれや学校づくりへの意欲が5年生に生まれてきたのだと思います。6年生が下級生へ託す願いが「つながる」ことを大いに期待したいと思います。御一小は益々いい学校になります。来年が皆様にとって、よい一年になりますように。

(校長 増田久美子)

